

## 令和5年度 第1回千葉市スポーツ推進審議会議事録

- 1 日 時 令和5年8月29日(火) 午後2時00分～午後3時45分
- 2 場 所 千葉市役所新庁舎(高層棟)2階 XL会議室202
- 3 出席者 (委員)  
小川直哉会長、本澤英雄副会長、上田日登委員、五月女重夫委員、高橋薫委員  
馬場宏輝委員、林田義久委員  
(事務局)  
小名木生活文化スポーツ部長、内谷スポーツ振興課長、伊橋スポーツ振興課長補佐、  
奈良担当課長補佐、田口主査、内山主査、吉田主査、吉井主査、松本主事、島崎主  
事、酒井保健体育課長、桑田担当課長、東主任指導主事、内藤公益財団法人千葉市  
スポーツ協会事務局補佐

### 4 議 題

#### (1) 報告

ア 令和4年度スポーツ振興事業実績及び令和5年度方針と施策について

①スポーツ振興課

②保健体育課

③スポーツ協会

イ 千葉市スポーツ推進計画の進行管理について

ウ 部活動の地域移行について

### 5 議題の概要

#### (1) 報告

5項目の報告を行った。

### 6 会議経過

開 会 午後2時00分

【伊橋課長補佐】本日の進行を務めます、スポーツ振興課の伊橋でございます。なお、本審議会は千葉市情報公開条例により、公開することになっております。本日傍聴者はおりません。なお、会議終了後、議事録の作成、議事録の確定を行い、開示されることとなりますので、あらかじめ御了解ください。それでは次第に従いまして、はじめに、小川直也会長にご挨拶をお願いいたします。

【小川会長】みなさんこんにちは。スポーツ協会の小川でございます。今年の夏は猛暑が続いており、そんな中、スポーツ推進審議会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。夏の甲子園高校野球では、慶応(神奈川)が実に107年ぶりに優勝しまして、これまでの長い歴史があることを改めて認識した次第でございます。そしてまた、ブタペストで行ってございました世界陸上競技選手権大会では、北口榛花選手が女子やり投げで金メダルを獲得され、26年ぶりのマラソン以外の金メダル獲得という非常に素晴らしい快挙であったと思います。スポーツ協会では、トップスポーツ者の講演をしております。昨年の12月にはロンドンオリンピックボクシングミドル級で金メダルをとりました村田諒太選手、そして今月の4日には、同じくロンドンパラリンピック

で金メダル、東京2020オリンピック・パラリンピックで銅メダル獲得のゴールボール元日本代表の浦田理恵選手に講演をいただきまして、定員をはるかに超える市民の皆様からの応募がございました。トップアスリートに対する関心が市民の皆さんは非常に高いと感じた次第でございます。両者ともに講演の内容は非常に充実しており素晴らしい講演でありました。また、市民の皆様から大変好評をいただきました。引き続き、このような企画を続けて参りたいと思います。本日は報告事項のみ3点ということでございます。委員の皆様のご意見を賜りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

【伊橋課長補佐】続きまして、生活文化スポーツ部長の小名木よりご挨拶申し上げます。

【小名木部長】皆さんこんにちは。生活文化スポーツ部長の小名木と申します。本日はお暑い中、またご多用の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から本市のスポーツ行政にご尽力いただきましておりますことを心より感謝申し上げます。さて、2023年は2020年より猛威を振るっておりました新型コロナウイルスが5類へと移行され、スポーツイベントでは声出し応援が解禁されるなど、以前の活気が戻りつつあると感じております。今年度の本市のスポーツに関しますトピックと致しましては、4月に千葉公園総合体育館（YohaSアリーナ ～本能に、感動を。～）が供用開始されまして、各種スポーツでの利用が可能となったところでございます。また、最近では7月からFIFA女子ワールドカップ2023が開催され、本市をホームタウンとするチーム、ジェフユナイテッド千葉レディースからも千葉玲海菜選手が日本代表に選出されましてスポーツへの注目度が高まるきっかけとなったところでございます。さらに先ほど小川会長よりもお話がございましたが、8月にはスポーツ協会さんの主催によりまして、ゴールボール元日本代表の浦田理恵氏の講演会が開催されまして、パラスポーツ推進に寄与する活動も行われているところでございます。本日は令和4年度の事業報告や部活動地域移行などについての報告を予定しておりますので、委員の皆様のご意見いただくことをお願い申し上げます。簡単でございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【伊橋課長補佐】それではこれからの進行につきましては小川直也会長にお願いいたします。

【小川会長】それではまず、「議事録署名人」についてですが、先程、進行の方から説明がありましたように、本審議会は会議の公開がされているわけでございます。議事録の確定方法につきましては、「あらかじめ指名された委員」による承認にしたいと思いますが、よろしいですか。

【各委員】<異議なし>

【小川会長】それでは、議事録署名人として、上田委員にお願いしたいと思います。上田委員よりお願いいたします。

【上田委員】<了承>

【小川会長】それでは、会議次第に従いまして、進めてまいりたいと思います。最初に、報告事項（1）の「令和4年度スポーツ振興事業実績及び令和5年度方針と施策について」、スポーツ振興課よりお願いします。

【スポーツ振興課職員】<資料1により報告>

【小川会長】ありがとうございました。続きまして保健体育課よりお願いいたします。

【東主任指導主事】<資料2により報告>

【小川会長】ありがとうございました。続きましてスポーツ協会よりお願いいたします。

【内藤事務局補佐】<資料3により報告>

【小川会長】 それでは今までの説明の中で何かご質問ありますか。

【馬場委員】 質問というより、感じたことをいくつか。一つ目は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックが終わり、レガシーについての話が少なくなっている中、オリパラレガシーがひとつ括られるようなもの、「パラスポーツフェスタちば」がいい例になるかと思いますが、外から見た時にレガシーが見えてこないのも、何か括った表現等があるといいなと思いました。次に、資料 1 の (3) で「スポーツ・レクリエーションを支える体制の整備」については、団体に関わるようなものが多いと思うのですが、個人的には、オリパラレガシーにスポーツボランティアは関わっていると思うので、プロスポーツへのボランティアや団体に限らず、市民が手軽に関われる、スポーツを支える活動が出てくるといいなと思ってます。それから学校体育についてですが、今年水難事故が凄く多かった気がします。泳力で 50m を泳げる子が 5 割 6 割と資料でありましたので、個人的にはこの点について改善されればいいなと思いました。最後に、スポーツ協会部分の障害者スポーツ指導員の養成講習についてですが、現在の名称がパラスポーツ指導員と変わってると思いますので、資格名称として初級パラスポーツ指導員、中級パラスポーツ指導員と障害者スポーツ指導員の名称をそれぞれうまく使い分けていただければいいなと思いました。

【小川会長】 馬場委員から色々ご意見いただきましたけど、その中でなにかありますかでしょうか。

【内谷課長】 スポーツ振興課でございます。ご意見ありがとうございます。おっしゃる通り、レガシーという形の切り口ですが、この計画自体、二年前に見直しまして、その施策体系で整理している部分がございます。当然この時はまだオリパラに向かってどうやって進めていくかというところが課題だったので、体系をそのまま変えるという形はまだ考えていないのですが、2 年後には見直しの時期になります。その時には、オリンピック・パラリンピックは必ず行われますので、切り口として、これからレガシーというところは考えていければと思います。いわゆる「する」「みる」「支える」の「支える」の部分では、今度開催するパラフェスでもそうですし、オープンボッチャ大会でもいろいろな大学にもご協力いただけてもいただいております。そのようなところも新しい計画の中に盛り込んでいければと思います。ありがとうございました。

【酒井課長】 保健体育課でございます。ご意見ありがとうございます。まずオリパラ教育についてですけれども、教育委員会では、オリパラレガシーということで、各学校で東京 2020 大会の取組をしっかりと継続するために、各小学校も中学校も必ず年間のうち何回かはパラスポーツの学習など取り組んでおります。教育委員会でも、例えば車いすですとか、必要な学習教材を用意して、各学校に巡回して学習に取り組んでいるところでございます。また、水泳学習については、基本的には千葉市の小中学校で、全ての学校で実技の学習をするということで取り組んでおります。また、学校のプールの老朽化から民間スイミングスクールに委託をして、児童がスイミングスクールに行って水泳学習を行うという取り組みを行っており、今年度 11 校で実施しております。今後さらに拡充して行きたいと考えております。また、参考までにお手元に配らせていただきました千葉市の保健体育の資料ですが、こちらの 15 ページの表に小学生の泳力調査結果ということで、25m 完泳率の推移を記載しております。コロナの関係で、令和元年以降数値が下がったり、調査ができなかったりということはあると思いますが、令和 4 年度におきましては、25m の完泳率が小学校五年生 48.1%、六年生においては 56.7%となります。また、実際に水泳学習を行った回数も記載しております。19 ページでは泳力調査結果ということで、中学校の 50m の完泳率を記載しております。学年男女別で記載

しております。50m ですので小学生 25m よりは完泳率が低くなっていうところもありますが、こちらについても更なる向上を目指して学校体育の中でしっかり学習して行きたいと考えております。以上でございます。

【小川会長】ありがとうございました。馬場委員よろしいでしょうか。

【馬場委員】はい、ありがとうございました。

【小川会長】何か他にご意見等がございますでしょうか。

【五月女委員】少年スポーツ連盟の五月女です。よろしくお願ひします。保健体育課へですが、学校体育実技指導者協力派遣ということで、中学校は武道2校と書いてありますが、近代武道は9つありますし、合気道の場合はまだまだマイナーな競技ですので、その中で各都道府県の教育委員会のご理解が必要ということは申し上げてきたんですが、中学校競技的にはどういったものを、またどういふ指導者を指導力の協力者派遣という形でお考えになっているのか。また、日本型学校体育構築支援事業についてはおそらく部活動の地域移行とは違ひ学校の授業の方だという認識では考えているんですが、この構築支援事業というのが、今後どのように千葉市の教育委員会の中で進んでいくのかということをお教えいただきたいです。お願ひいたします。

【酒井課長】保健体育課でございます。どうもありがとうございます。

まず、学校体育の実技指導協力者派遣事業ですが、昨年度は水泳を3校行い、中学校では柔道を大宮中学校で実施をしております。また、令和の日本型学校体育構築支援事業ですが、こちらはスポーツ庁の委託事業として、記載のとおり種目、競技、そして学校で行っています。令和5年度につきましては、現在学校や指導者の調整等に取り組んでいる状況でございますので、武道関係の皆様へ、ご指導ご助言をいただきながらしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

【五月女委員】微力ですが、お手伝いをしていきますので、お願ひします。

【小川会長】ありがとうございました。そのほか何かございますでしょうか。

続いて、報告事項(2)の千葉市スポーツ振興計画の進行管理につきまして事務局よりお願ひします。

【スポーツ振興課職員】<資料4により報告>

【小川会長】ありがとうございました。ただいまの報告について、何かご意見等ありましたらお願ひいたします。

【馬場委員】スポーツ実施率の調査は毎年するのでしょうか。

【スポーツ振興課職員】スポーツ実施率の調査につきましては、毎年、Webアンケートで調査をしております。今年も秋頃に調査を予定しております。例年、秋頃に調査をしまして、年度末の審議会での報告を考えております。

【馬場委員】わかりました。ありがとうございます。

【小川会長】それでは次に、報告事項(3)の部活動の地域移行につきまして報告をお願ひいたします。

【桑田担当課長】<資料5により報告>

【小川会長】ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、なにかご質問等がありますか。

【馬場委員】私は、市原市と睦沢町の二つの自治体の部活動地域移行の会のメンバーとして、今色々やらせていただいております。今年度はまだうまくはっていないのですが、市原市では部活動を地域に移行するのではなく、地域に子供たちの受け皿どう作るかという発想で話を進めています。

そこでお聞きしたかったのは、13ページの「令和5年度取り組み」で千葉市が実施主体に地域クラブ活動運営を実施委託するというのは、お金を出すというイメージでよろしいでしょうか。

【桑田担当課長】はい。

【馬場委員】また、すでに実施主体、団体は決まっているのでしょうか。

【桑田担当課長】今、募集をかけているものでして、近々決定するということです。

【馬場委員】お金がなくなっても自立できるような、スキームになっていきそうなんでしょうか。

【桑田担当課長】最終的には、受益者負担という形が、どこまで実施できるかというところにかかるかと思うのですが、国からの補助金額の動向を見ながら考えていきたいと思えます。

【馬場委員】そうですね。私は17ページにでている柏市の例のようになっていかなければいけないと思っているのですが、市からの財源をもらっているのか、完全な受益者負担で行っているのかを聞いてみたいなと思っていたところでした。

私は、地域移行した時には、平日に部活動はやっていないけど、土日は地域のクラブに入って活動する子どもたちが増えても、そちらの方がいいと思っています。休日だけの移行と平日もイメージした移行だとまたガラッと変わってくると思うので、平日も含めて取り組んでいければいいなと思っています。

【桑田担当課長】柏市の事例に関しては、先日のヒアリングにも行かせていただいて、状況の把握はしておりますが、柏市は受益者負担という形で月2,000円、登録費5000円ということで、年間2万9千円。ただし、就学援助のところで経済困窮家庭は柏市の方で負担することとなっております。また、登録費5,000円については、経済的なものに関わらず、すべての生徒について負担をするということで聞いておりますので、基本的には受益者負担で自立するような形でのスキームを作っていくと聞いております。

【馬場委員】私も受益者負担は大賛成ですが、恐らく受益者負担にしていくと、参加人数が減っていくと思います。なので、部活は低料金で出来たため参加していたが、受益者負担で費用が増えるのであれば、子ども達にはやらせないという親は多分増えていくと思います。ただ、私は水泳を専門としているのでわかるのですが、水泳をやってる子ども達の親はスイミングスクールに入れていますが、多分スポーツは今後そのようになると思っています。私自身それはそれでいいと思っています、そうなった時にお金がないからスポーツができない、スポーツは得意でないからできないといった子の受け皿をどう作るかの方が大事だと思っておりますので、市原でやろうとしているのは、本気でやりたい子が入るクラブはしっかり地域で整備をして、そうじゃない子どもたちの遊び場を学校単位でちゃんと整備してくださいというお願いをしています。なので、お昼休みに子どもたちが遊ぶような時間を放課後にも作って、校庭で野球やサッカーをやって、体育館でバスケやバトミントンなど、一時間ぐらい遊んで帰るというようにクラブで本気にやる子と、そうではなく楽しく自由に体を動かす子が増えると、今部活に入っていないでスポーツをやってない子どもたちがスポーツできるチャンスが増えると捉えているので、部活は限りなく縮小し、クラブ化し、子ども達に遊び場を増やすという発想で市原市は動いています。千葉市に合うかは別として、受益者負担は限りなくメンバーが減ってくっていく前提になると思います。平日の部活はやるが、土日の受益者負担によるものはやらないという子が増えるのではないかと想定しています。

【小川会長】その他、何かご質問ございましたらお願いいたします。

【高橋委員】 11 ページ目の実施期間の「令和5年10月から令和6年3月の期間のうち、土日どちらが一日で全20回程度」とあるんですけど、これは1校につき20回程度なのか、全18校で20回程度なのか。もしくは1つの種目に対して20回程度なのか。全部の種目を含めて20回なのか教えていただきたい。また、12 ページ目の拠点校部分についての解釈についてお聞きできればと思います。

【桑田担当課長】 まず12 ページ目の方でご説明をさせていただきたいと思います。

全20回というのが、組み合わせが1から15通りあるのですが、その組み合わせの1グループで20回程度ということになり、野球では犢橋中学校他2校ということで、参加するのは犢橋中学校、花見川中学校、さつきが丘中学校の3校で20回程度の活動を行う。またサッカーについては犢橋中学校他1校ということで、犢橋中学校とさつきが丘中学校の2校で20回程度活動するという形で、それぞれの組み合わせで20回程度の活動をするということで考えております。拠点校については、犢橋中学校他2校ということであればこの3校が一体となって、練習を行う形で考えております。場所については、これから学校との調整の中で、メインの活動場所をどうするのか、順番に行うかということを決めていきたいと考えております。

【高橋委員】 ありがとうございます。

続いてですけど、プロスポーツ側の立場として、4 ページ目のところの「成果と課題」について、まさに私たちが心配しているような課題が、実際現場から声があがるということを感じる一方で、この課題をどういうふう風に汲み上げる、もしくは仕方がないという風に諦めていくのかという点が、受け入れる可能性のある立場としては、すごく心配をしているところがあります。

先日、中学校の教職員の方と意見交換を行ったのですが、現在千葉市の子選会は学校の先生達がほぼボランティアのような形で行っていて、さらに学校の先生たちのネットワークがあるからこそできている大会だと思います。そのような中、地域移行をすることにより、実施出来なくなってしまうんじゃないかという危惧をされており、大きな課題であると思いました。また、我々のようにトップアスリートを育成するようになったときに、学校の部活動というのは、お金が払えない子であっても可能性があって、またその中から良い選手がいて、ピックアップされていくっていう仕組みはあったと思います。地域移行され、受益者負担になっていくと、お金のない子達の中でも良い選手はいるので、そういう子たちにその可能性がなくなってしまうようなことが起こるのではないかという風に思っています。そういう子たちが出てきた時に、学校の教育としてそれでいいのかなというところも、私たちだけでは拾いきれないところなので、その部分をなんとか一緒に解決できる方法があるといいなと、子供達をうまく拾ってあげるような社会の仕組みができるといいなと感じています。

【桑田担当課長】 まず、1 番目の大会の運営方法については、現在、公式試合としては夏の総体、また冬の新人戦がありますが、これについては中体連が主催、千葉市が共催となって運営しており、これはほぼすべての自治体で同じような仕組みで運営されています。地域移行にあたって、その大会運営がどうなっているのかというのは全国的にも大きな課題となっております。地域移行されたことで、先生の見識の提供で地域クラブをやるとしても、大会自体や会議等は勤務時間中に行われているような状況あり、今は先生が運営するため、職免で行ったりできるような状況ですが、これが地域移行になった場合に、どこまでこの体制が維持できるのかが、今のところかなり難しい状況なのかなと思っています。中体連もいろいろと考えているかと思いますが、その動向を注

視しながら千葉市も大会運営についても考えていかなければならないと考えております。現在、このことについては確たる答えのない状況ですが国の情報、全国の動向を注視しながら考えていきたいと考えております。

続いて、地域移行で子どもたちにとって問題になるのが、お金の問題だと思うのですが、これについて国としては受益者負担が前提となっています。一方で、負担が軽くなるよう方策を講じることとしておりますので、何とかしていきたいと考えておりますが、先ほど申し上げた柏市の事例については、就学援助や生活保護世帯については自治体が負担するという形がありますので、それが一つの解決する手段なのかなと思います。また、他の自治体では企業からの協賛金などを使って生徒に負担を設けないような形に運営しているという自治体もあると聞いておりますので、そのような形で、社会全体で子どもたちの地域スポーツ・文化・芸活動をする場を維持できればと考えております。なかなか自治体だけでは解決できる問題ではないので、国含めそういった空気、社会、環境を整えて頂きたいなと感じているところではございます。

【高橋委員】ありがとうございます。

【小川会長】他に何かご意見等ありましたらよろしくをお願いします。

【上田委員】上田です。地域移行するにあたって、各地域でどういった団体が動いているかを把握しておいた方が良いと思っております。地域移行して、「やりたい」と思った子がいて、そうなったとき自分で調べるのも限界があると思うので、千葉市の方で例えばバドミントン、バレー、バスケットボールのどういうクラブがあるのか、サイトに行くとか一覧表で該当クラブにアクセスできるようにすると、よりクラブでもやりたいという子が情報を収集できるという方法は考えていますか。

【桑田担当課長】ありがとうございます。参考資料の最後のページをご覧ください。こちらは掛川市の事例ですが、掛川市が用意する地域クラブもありますし、現時点で活動しているスポーツ・文化・芸術団体を登録するという制度も掛川市は作っております。自治体が公認する地域クラブ公認制度を作り、ある程度の一定の基準をクリアすれば、市のホームページに一覧として表示されるような形になっています。そうすることで、部活動地域移行説明時に地域クラブの紹介、活動場所の案内がしやすくなると思いますので、掛川市の事例を活用できないかと考えています。千葉市では、学校開放でいろんな団体が活動しておりますので、そうした団体、クラブ等をピックアップし、中学生を受け入れられるようということであれば登録して、子どもたちがいろいろな競技の中から選ぶことができるというのがあって良いのではないかなと思っています。現在、調査研究をしているような状況でございます。

【上田委員】ありがとうございます。

【小川会長】他に何か意見はございますか。

【五月女委員】少年スポーツ連盟の立場として、地域移行に対してはチラシを作り、各学校またはスポーツ施設等に配付し、小中学生に競技団体、種目の周知を行い始めたところです。時間もかかってくると思いますが、千葉市の方でも少年スポーツ連盟の種目の周知を強化して行きながら進めていきたいというふうには考えておりますので、よろしくをお願いします。以上です。

【小川会長】よろしいですか。それでは、今まで総合し何かご意見等はございますか。

【本澤副会長】スポーツ推進委員の本澤です。

家庭バレーボール大会についてですが、4年ぶりに開催することができました。ただ、内容が去年とは若干違いまして、今までは、中学校の体育館2コートで試合を進めて

いたんですが、まだコロナの懸念があり、午前、午後で推進委員を振り分け試合を実施いたしました。さらに今大会は給水タイムを設けて、今年は終了いたしました。やはりまだコロナの心配や三年間のブランクがあつて、なかなか出てこられないという方もおり、若干チーム数・参加者は減っておりますので、来年に向けて検討して行きたいと思ひます。また、ジュニアスポーツ大会について、現在、各地で実施をしているところだす。やはり暑さがありますので、昔は8月を中心に実施していましたが、今現在は8月から12月までの間に各地域で都合のいい月を選んで実施を促しています。さらには、給水タイムなども考慮しながら進めているところであります。以上です。

【小川会長】他に何かご意見等はございますでしょうか。

【各委員】<なし>

【小川会長】ご協力ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

【伊橋課長補佐】小川会長議事進行ありがとうございました。それでは、これをもちまして、「令和5年度第1回千葉市スポーツ推進審議会」を終了致します。ありがとうございました。

閉 会 午後3時45分